

伊賀流自治の視点

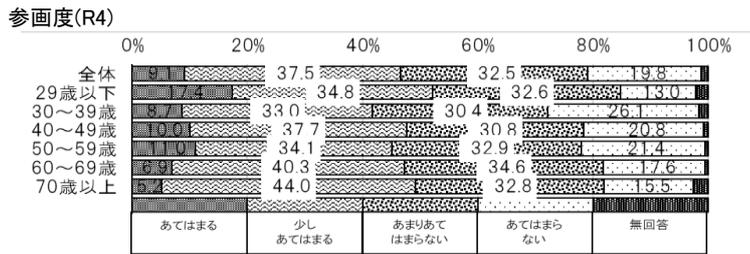
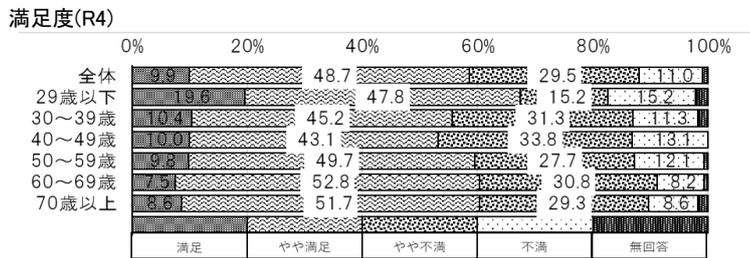
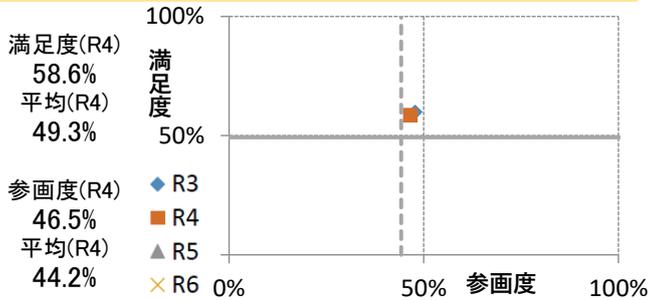
【主担当部局】

人権生活環境部

- ・市民との協働による啓発事業を推進します。
- ・人権侵害の発見や防止、人権に関する相談、人権侵害に対する救済・保護支援を進めます。
- ・あらゆる場面への女性の登用を図り、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組みます。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2022(R4)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	人権啓発 市民一人ひとりが、さまざまな人権問題を自分自身の課題とし、その解決に向けて努力できるよう、人権啓発など、あらゆる場・機会を通して人権啓発活動や人権同和教育を推進します。また、地域における市民主体の人権同和教育推進団体や地域での人権教育リーダーの育成をめざします。新型コロナウイルス感染症の拡大における、コロナ差別(誹謗中傷)への対応について、正しい知識や情報を提供し、人権意識のさらなる高揚を図ります。	○人権啓発推進事業 ・人権啓発地区草の根運動推進会議に関する事業(人権地区別懇談会事業) 事前学習会 ①7/5、②7/6 ・各地区年間実績 人権講演会実施13地区 ・部落解放・人権大学連続講座(5回)開催 (①8/26、②9/16、③10/14、④11/15、⑤12/16) ・「ひゅーまんフェスタ2022」の開催(8/27) ・性的マイノリティ支援 ・パートナーシップ宣誓制度申請件数 2件 ○人権施策総合計画策定事業 計画策定に係る審議会の開催(①4/20、②6/29、③8/29、④10/18、⑤3/23)	成果指標	参加者の意識向上度					
			成果指標の説明	人権講演会等参加者アンケートにおいて、今後も開催すべきかという設問に対し、「積極的に行うべきである」と答えた人の割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	48.9	59.9	67.7			58.9
2	非核平和 幅広い年代の市民が集い、平和に関心を持つために、戦争体験の伝承を含めた総合的な平和学習の機会を提供します。また、児童生徒への平和への意識向上に向けて、市内小・中学校と情報共有を行い平和学習につなげます。	○非核平和都市推進事業 ・非核平和推進中学生広島派遣事業(市内中学校より各1名、合計10名参加) 参加者事前学習会(7/29) 広島現地派遣(8/5~8/6) 平和祈念式典参列、被爆者講話拝聴、等 「ひゅーまんフェスタ2022」における報告と市民への発信(8/27)	成果指標	中学3年生の平和への貢献度					
			成果指標の説明	中学生広島派遣の代替として実施した中学生アンケート、または、中学生広島派遣事業に参加した中学生へのアンケートにおける、平和な世界をつくるための取り組みへの意欲(1. したい 2. できればしたい)					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	74.7	57.3	75.0			83.0
3	男女共同参画 男女共同参画基本計画に掲げる3つの目標「あらゆる分野における男女共同参画の推進」「共同参画に関する意識の普及と教育推進」「ワーク・ライフ・バランス(WLB)の実現」の達成に向け、あらゆる場面での政策決定の場への女性の登用促進、及びこれを進める指導者の育成、男女共同参画の啓発や学習機会の推進、DV防止の取り組みや女性の相談窓口の開設、企業への働き方改革の推進や「ハタラクカタ応援宣言」企業の拡大に努めます。	○男女共同参画推進事業 ・男女共同参画フォーラム「いきいき未来いが」の開催(7/9) ・女性防災リーダー連続講座(4回)の開催 (①8/5、②10/14、③12/2、④2/3) ・男女共同参画連携映画祭の開催(8/20) ・女性のエンパワメント講座の開催(9/16) ・イクボス講座の開催(10/31) ・女性法律相談(4~3月) 件数 30件	成果指標	女性登用率					
			成果指標の説明	市が設置する審議会・委員会の女性登用率					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	23.4	24.9	26.9			30.0
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

まちづくりアンケート調査結果



傾向
 ・29歳以下の若年層の満足度が高い。
 ・参画度は、全世代共通で全施策のほぼ平均値である。

【CHECK②】		【ACTION】	【事業の進捗】
効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況
1	効果が出ている点	○既存事業案 アフターコロナを見据えた市民への学習機会の提供について、対面式とオンライン形式を複合させたハイブリッド方式を採用する等様々な方法を検討する。 補助金等交付先団体の事務局事務は、適正な状態にするため、当該団体との協議・調整を始める。	計画通り進めている
	課題		
2	効果が出ている点	○既存事業案 現状の取り組みを継続するなかで、より幅広い世代への啓発を進めていく。	計画通り進めている
	課題		
3	効果が出ている点	○新規事業案 地域の女性防災リーダーの育成に関して、消防本部との連携により、女性消防団員の拡充や地域防災組織の充実を図る内容を検討する。 ○既存事業案 男女がともに学べる機会を提供するため、内容や形態を検討する。	計画通り進めている
	課題		
4			

伊賀流自治の視点

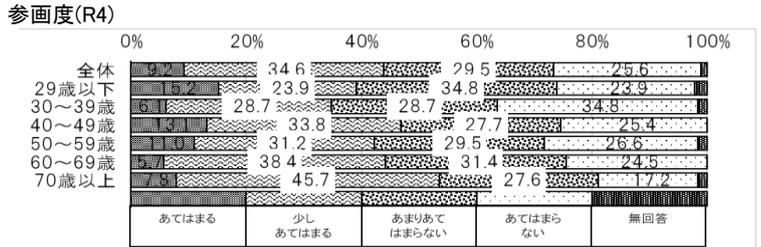
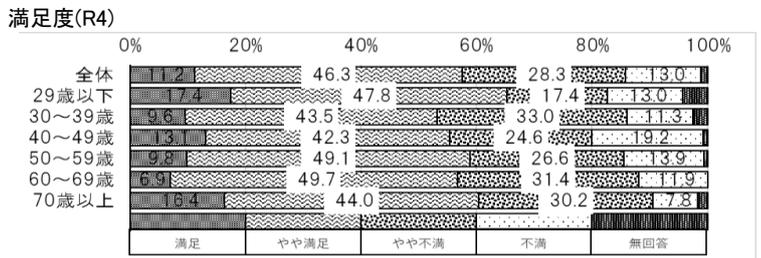
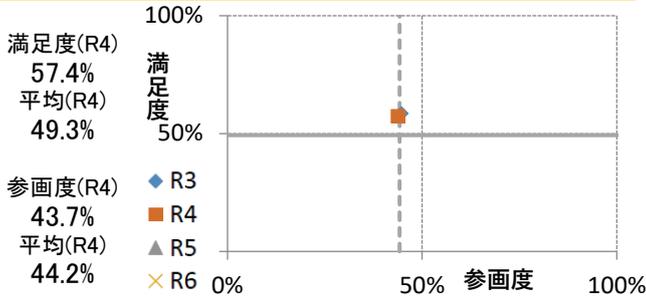
【担当当局】

人権生活環境部

・ 部落問題の解決に向けて、隣保館における各種相談業務を分析し、課題を把握するなかで必要な施策を立案します。さらに残された課題を市民と共有します。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2022(R4)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	同和施策 同和問題の早期解決の視点に立った取り組みを進めるため、部落差別を受けている地域の実情や施策ニーズに基づく生活困窮者への対策などを体系的に整理し、実施します。	現在、策定中の部落差別解消(第4次伊賀市同和施策)推進計画について、R3年度に隣保館等相談ニーズ調査を実施し、部落差別についての現実の実態や、被差別当事者の思いを把握し、この調査結果の分析も含めて計画に反映するようにR5年度内の完成を目指します。部落差別について、ヒアリングによる実態や思いは、表面化していない実態であり、この内容を策定に関わる庁内の推進会議で共有し、全庁で部落差別の解消への取り組みを計画に盛り込みます。	成果指標	参加者の意識向上度					
			成果指標の説明	隣保館・児童館・教育集会所の同和問題研修会アンケートの理解度「たいへん深まった」と答えた人の割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	62.7	60.19	89.7			72.7
2	隣保館・児童館・教育集会所 隣保館は、人権啓発の拠点としての同和問題に関する事業のほか、各種相談事業を実施し、地域のコミュニティセンターとして住民のニーズに応じた自立支援を図ります。 児童館は、放課後の児童の活動の拠点として、広く仲間づくりや世代間交流事業などを実施します。教育集会所では、部落差別による教育的不利な環境におかれている児童生徒の学習機会を確保し、自尊感情の醸成や自己実現を図ることで、将来展望を持てるよう学力保障に努めます。また、生涯学習として人権同和教育推進活動の充実を図り、個別の人権課題解決に向けた取り組みを市民相互で行います。	隣保館は、人権啓発事業、地域のコミュニティセンターとして地域福祉事業、各種相談事業を実施し、文化教養の向上を目指した各種教室(識字・パソコン・手話・俳句・陶芸等)の開催や、福祉事業(高齢者見守り・高齢者交流会・健康教室等)の開催、生活全般に係る相談業務を実施しています。 児童館は、放課後の子どもの居場所として地区内外の児童を対象に開館し、自主学習や体験学習を通じた学習支援を行っています。 教育集会所は、部落問題の学習の場として、小中学生の地区学習会や、高校生・青年・保護者の活動の場として、学校と連携して取り組んでいます。また、次世代の担い手の育成として、地区青年等による小中学生への活動支援を行っています。	成果指標	年間相談 延件数					
			成果指標の説明	生活福祉・教育・子育て・就労等の年間相談件数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(人)	3,149	3,560	3,251			3,100
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

まちづくりアンケート調査結果



傾向

- 満足度は平均と比べ高く、参画度は全施策のほぼ平均値である。
- 29歳以下の満足度が高い。
- 29歳以下と、30歳以上39歳以下の参画度が低い。

【CHECK②】		【ACTION】	【事業の進捗】
効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況
1	効果が出ている点	<p>○既存事業案 現在、定期的に館所長会議を開催して、各地区の状況の共有を行なっているが、次年度からは、職員相談者のスキルアップも視野に入れた、相談員相談内容検証会議(仮称)を開催し、生活実態等の把握を行う。</p>	遅れている
	課題		
2	効果が出ている点	<p>○既存事業案 各施設における相談事業に関して、調査分析結果を踏まえて、施設独自に地域の状況や課題と指標・目標を明確にする。</p>	やや遅れている
	課題		
3			
4			

伊賀流自治の視点

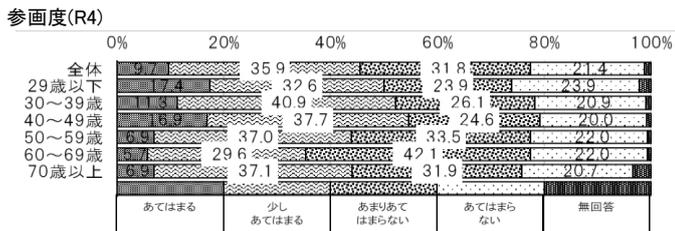
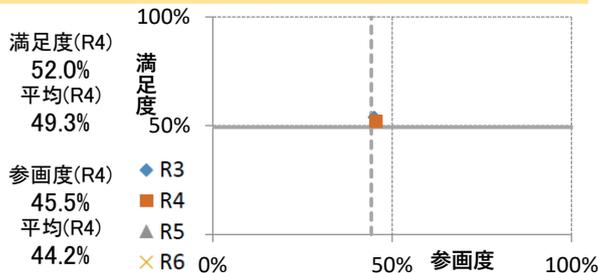
【担当当局部】

教育委員会

- ・教育委員会は、伊賀市教育大綱、伊賀市教育方針、伊賀市人権同和教育基本方針に基づき、子どもたちが個性を伸ばし、夢を追い求められるよう、一人ひとりが確かな人生観を持ち、心豊かで健やかに成長する教育をめざします。
- ・各学校・幼稚園は、教育を取り巻く環境が激しく変化するなかで、学校・幼稚園教育への要請に対して、迅速かつ誠実に対応します。
- ・学校・幼稚園の情報を分かりやすく提供し、学校・幼稚園の課題を地域全体で共有できるよう努めます。

【PLAN】		【DO】		【CHECK①】						
基本事業		2022(R4)年度の事務事業		KPI(成果指標)						
1	学校マニフェスト 確かな学力の保障、人権・同和教育の充実、キャリア教育の推進を3本柱に、子どもたちの自立をめざすために取り組むべき努力目標、具体的な取り組み内容を学校(園)マニフェストとして作成し、保護者や地域の方に公表し、評価を受け、改善を行い、学校(園)経営の質の向上に努め、保護者・地域に信頼される学校・幼稚園づくりをめざします。 確かな学力の保障については、児童生徒1人1台のタブレット端末等のICT機器を有効に活用し、一人ひとりの個性に応じた教育を一層推進し、学力の向上に努めます。	○地域とともに学校マニフェスト推進事業 ・学校経営品質向上事業 ○学力向上推進事業 ○人権同和教育推進事業 ○キャリア教育推進事業 ○英語指導助手招へい経費 ○伊賀市教育研究センター管理運営経費 ○学校管理用備品整備事業 他	成果指標 学校改善に努めていると感じる保護者の割合	各学校が実施する学校評価アンケート(保護者用)において「学校は、保護者や地域(学校運営協議会委員等)の意見を取り入れて学校改善に努めている。」(12月末時点)と回答した割合						
			現状値 実績(%)	2021(R3) 90	2022(R4) 88.9	2023(R5) 90.6	2024(R6)	目標値(単年)	90	
2			成果指標 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査(児童生徒質問用紙)において「将来の夢や目標を持っていますか。」(4月時点)に対して肯定的に回答した小学6年生と中学3年生の割合						
			現状値 実績(%)	2021(R3) 76.8	2022(R4) 74.2	2023(R5) 73.5	2024(R6)	目標値(単年)	80.0	
3	児童生徒の支援 障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導や必要な支援を行います。また、こども発達支援センター、いが児童発達支援センターと連携しながら、適切な支援や望ましい就学指導をめざします。さらに、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、学校・学級に応じた教育支援員の配置に努めます。「伊賀市いじめ防止基本方針」「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめを正確かつ積極的に認知し、いじめの未然防止・早期解決に向け、学校・家庭・地域が連携していじめ問題に対応します。また、児童生徒が情報に対して正しい判断力を持ち、安全かつ有効に活用できるよう、情報モラル教育を進めます。 いじめやネットトラブル等の問題行動を早期に把握し、関係機関との連携及び教職員の共通理解を図り、指導体制を確立して指導にあたります。また、教育相談等を通じて共感的理解に努め、児童生徒の持つ生活課題を正しく把握し、その早期解決に努めます。	○児童生徒支援事業 ○不登校児童生徒支援事業 ○外国人児童生徒支援事業 ○特別支援教育充実事業 ○生徒指導推進事業 ○部活動指導員配置促進事業 ○健康管理経費 ○就学奨励費 ○学校給食管理費 他	成果指標 個別的教育支援計画・指導計画の作成割合	学校教育課による各学校への調査結果(12月末時点)の割合						
			現状値 実績(%)	2021(R3) 100	2022(R4) 100	2023(R5) 100	2024(R6)	目標値(単年)	100	
4			成果指標 情報モラル学習を実施する学校の割合	学校教育課による各学校への調査結果(12月末時点)の割合						
			現状値 実績(%)	2021(R3) 100	2022(R4) 100	2023(R5) 100	2024(R6)	目標値(単年)	100	

まちづくりアンケート調査結果



傾向

- ・平均と比べ、満足度、参画度ともにやや高い。
- ・70歳以上の満足度が高い。
- ・50歳以上の参画度が低い。

【CHECK②】		【ACTION】	【事業の進捗】
効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況
1	効果が出ている点	<ul style="list-style-type: none"> ○既存事業案 <ul style="list-style-type: none"> 学力向上推進事業において、ICT機器の効果的な活用についての研究を行うことにより子どもが理解できる授業への取組を行う。 ・家庭学習への取組として、各学校が実践し効果があった取組について共有する機会を設ける。 	計画通り進めている
	課題		
2	効果が出ている点		
	課題		
3	効果が出ている点	<ul style="list-style-type: none"> ○新規事業案 <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校において給食の無償化を実施し、食育を推進する。食育に関する保護者向けリーフレットを作成し、朝食欠食率の減少等に取り組む。 ・学校部活動地域移行に対応するため、部活動指導員配置事業において、新たに「部活動の段階的な地域移行支援体制整備事業」を立ち上げる。 ○既存事業案 <ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒支援事業において、不登校児童へのきめ細やかな対応が必要であるため支援員の配置について検討する。 	計画通り進めている
	課題		
4	効果が出ている点		
	課題		

伊賀流自治の視点

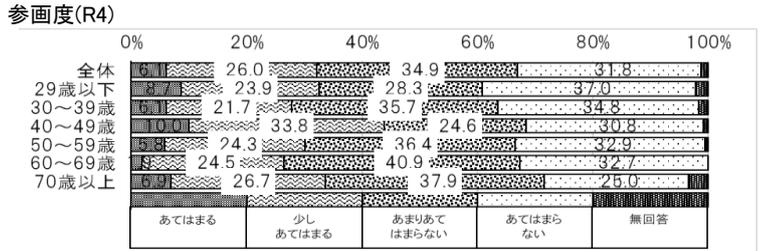
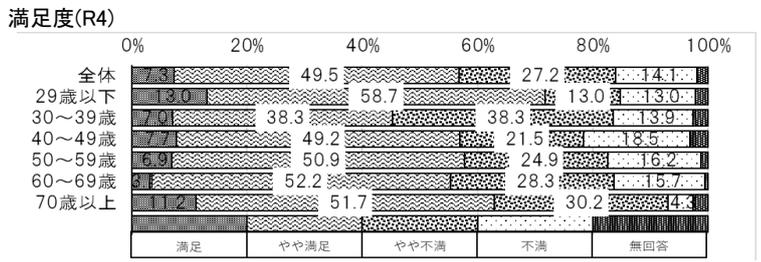
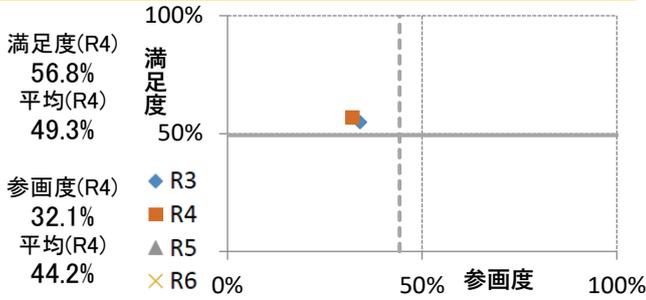
【担当部署】

教育委員会

- ・ 学校統廃合などを見据え、計画的に学校施設の整備を進めます。
- ・ 教室やトイレなどの学習環境の維持向上に努めます。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2022(R4)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	校区再編 適正な児童生徒数での学校運営を行うため、校区再編計画を策定した地区の該当校の統合を推進します。また、将来の児童生徒数の減少を見据え、子ども達にとって望ましい教育環境の検討を進めます。	○奨学金等支給事業 ・高校生・大学生等に奨学金を支給。 ○情報化教育推進経費 ・GiGAスクール構想への対応等 ○スクールバス運転管理及び維持経費 ・直営、委託等によるスクールバスの運行 ○遠距離通学者等通学経費 ・遠距離通学児童生徒の通学費補助 ○教材・教具整備費 ・図書、教材備品等の購入 ○新型コロナウイルス対策事業 ・補助金を活用した消耗品、備品購入等 ○学校給食管理経費 ・自校方式による給食実施 ○給食センター管理運営経費 ・センター給食の管理運営事業	成果指標	複式学級数					
			成果指標の説明	R2.4月現在、校区再編の計画がある小学校の複式学級数《現在、2地区5校で校区再編を計画しており、R6Iには統合を完了させる予定であるので、その時点で2地区の複式学級が解消されている。》					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(学級数)	2	2	2			0
2	学校施設整備 学校施設長寿命化計画に基づき、長寿命化の視点に立った施設・整備の保全を計画的に行います。また、情報教育の推進など時代の変化に伴う課題に対応した機能整備も進めます。 児童・生徒数が少ないスクールバス運行路線については、規模に応じた運行方法などを検討します。 安全・安心でおいしい給食を提供するとともに、小学校給食のセンター方式への段階的移行に向け、学校・関係事業者との協議を進めます。	○施設維持管理経費 ・学校の保守点検、清掃、修繕 ○施設改修事業 ・学校施設の改修 ○依那古小学校大規模改造事業(繰越) ・上野南小学校開校に向けた大規模改造 ○新型コロナウイルス対策事業 ・補助金を活用した空調設備、トイレ改修等 ○久米小学校屋内運動場大規模改造事業 ・老朽化した同校の大規模改造	成果指標	施設改善率					
			成果指標の説明	学校施設長寿命化計画に掲載している建物数のうち、事業計画に基づき改修などを行った建物の割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
			実績(%)	0	8.8	14.7			17.6
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

まちづくりアンケート調査結果



傾向

- ・満足度は平均と比べ高く、参画度は平均と比べ低い。
- ・30歳以上39歳以下の満足度、参画度は比較的低い。
- ・40歳以上49歳以下のみ全体平均並みである。

【CHECK②】		【ACTION】	【事業の進捗】	
効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況	
1	効果が出ている点	・校区再編については、令和5年4月6日に上野南小学校の開校式を終えることができた。新たな校区再編計画策定に向け、小学5・6年生、全中学生、小中学校全保護者、教職員を対象にアンケートを実施し、現在分析作業中。	○新規事業案 新しい校区再編計画策定に向け、アンケートを分析し、地域の声などを聴きながら事務局案を作成する。その際、義務教育学校等の制度も十分に検討する。また、通学方法や保護者負担についても検討する。	計画通り進めている
	課題	・奨学金制度統合について、関係機関との調整協議が課題。所得基準や人材育成の取組みについて、提案内容を十分に精査して協議に臨む必要がある。 ・新たな校区再編計画策定委員会を今年度中に立ち上げる予定であるが、事務局から根拠のある再編案を早期に提案できるかが課題。 ・島ヶ原小中学校の通学については、現在行政バスを利用しているが、来年度から交通政策課がデマンド運行を実証運行することから、通学方法について学校、保護者、地域と協議して検討する必要がある。 ・教職員の働き方改革の一助となる校務支援システムの導入に向け、より良いシステムを選定し、スケジュール通りに必要な機器等を調達できるかが課題。	○既存事業案 伊賀市奨学金については、経済的支援の必要な家庭に支援が行き届くよう受付期間や周知方法の工夫をして取り組んでいる。また同和奨学金との制度統合については、5月に支給選考委員会を開催し、協議を進めたい。	
2	効果が出ている点	交付金などによる財源を活用し、事業計画の前倒しなどを行いながら、着実に事業進捗が図れている。	○既存事業案 「学校施設長寿命化計画」の見直しを行い、施設・設備の保全を計画的に履行する。	計画通り進めている
	課題	学校施設長寿命化計画の策定より3年が経過する中で、事業の前倒した案件もあることより、同計画の見直しを早急に行い、児童・生徒が安心・安全に学校生活を送れる環境整備を行う必要がある。		
3				
4				

伊賀流自治の視点

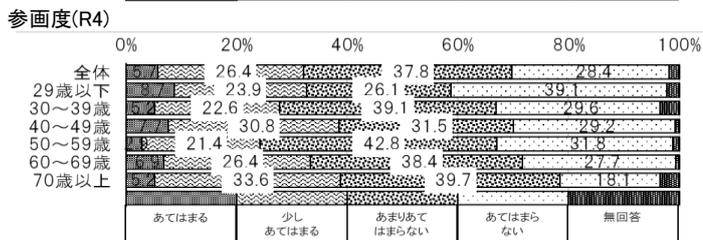
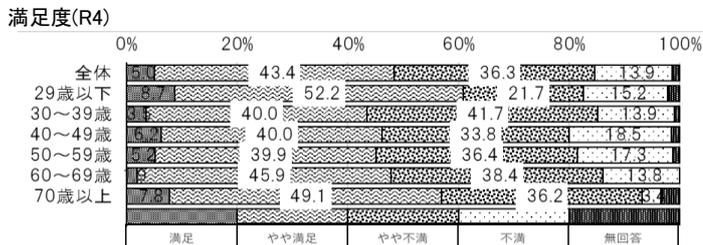
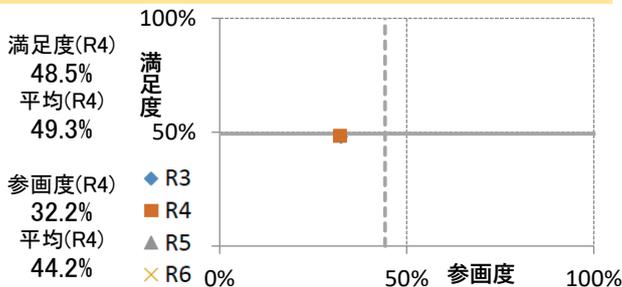
【担当部局】

教育委員会

- ・すべての市民がいつでも・どこでも学べる体制を整え、地域で活躍できる人材を育成します。
- ・子育てや子どもの健全育成の指針となる「輝け！いがっ子憲章」を推進します。
- ・図書館においても、郷土愛を育み、情報の拠点・交流の場としての機能を充実するよう努めます。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2022(R4)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	生涯学習 若者の社会参画として成人式の運営、中間層世代の参画を促すための初めての講師サポート事業、まちづくりにおける人材育成を目的とした研修会や講座など市民の学習意欲・社会参画に応じた学習・参画の機会を提供します。 また、各住民自治協議会が特色ある生涯学習活動を行えるよう、関係課や関係機関等と連携し積極的に支援を行います。さらに、地域間の情報共有の場や意見交換会、地区市民センターを利用した出前講座など地域との連携により事業を実施します。	○成人式開催経費 20歳(1/8)、19歳(3/19)の成人式の開催 ○社会教育推進経費 社会教育行政への提言や成人式の協力、独自事業「いがファミリーフェスタ」を実施 ○公民館事業 初めての講師サポート事業、読み聞かせボランティア入門講座等を実施 ○生涯学習活動事業委託 住民自治協議会と生涯学習活動に関する委託契約を締結し、活動を支える生涯学習支援員を配置する。	成果指標	人材育成講座 参加者数					
			成果指標の説明	初めての講師サポート事業など地域で活動できる人材育成のための講座及び交流会の参加者数					
			現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)	
		実績(人)	274	492	895			480	
2	図書館活動 すべての市民がどこに住んでいても楽しく図書館サービスを受けられるよう、図書自動貸出や予約本自動受取等サービスのIT化を進めるとともに、学校図書館、上野点字図書館、歴史・文化等関係施設や、読み聞かせボランティアグループ、関係団体などと連携し、図書館サービスの充実に努めます。さらに、地域資料や地域振興支援等「地域の特性を活かすサービス」、児童・ヤングアダルト・シニア・障がい者・多文化等「利用対象者別サービス」、レファレンス等「資料・情報提供サービス」について、より効率的で専門性の高い図書館サービスを提供します。	○図書館管理経費 ・図書館利用及び読書推進 ・貴重資料のデジタルアーカイブ化による資料の利用促進	成果指標	図書館年間入館者数					
			成果指標の説明	上野図書館の年間入館者数 *サブ指標として現図書館の目標値を表記 《目標値は、伊賀市新図書館基本計画(H26.3策定)に記載の新図書館の延床面積3,600㎡をもとに、「伊賀市のにぎわい創出に向けた庁舎移転後の活用方針について(H28.8.16)」資料として公表した入館者数(97.67人/㎡)×3,600㎡を引用》					
			現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)	
		実績(人)	80,523	62,224	65,311			352,000 *71,100	
3	子ども読書活動 家庭、地域、学校、図書館等との連携を図り、子どもが自ら進んで読書に親しめる環境を整えます。また、市内で活動する読み聞かせボランティアグループの育成を行うとともに、読み聞かせボランティアグループへ図書資料等の団体貸出を行い、活動支援を行います。	○図書館管理経費 ・子どもの読書活動推進	成果指標	児童書の年間貸出冊数					
			成果指標の説明	上野図書館ほか分館における児童書の年間貸出冊数					
			現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)	
		実績(冊)	118,710	123,497	126,749			145,000	
4	青少年健全育成 市民団体等と連携し、「輝け！いがっ子憲章」の周知・啓発を行います。家庭・学校・地域が一体となり青少年の安全確保と健全育成を目的として、子どもの居場所づくりである放課後子ども教室の実施や、子どもの見守りや相談支援を行う青少年センターの充実を図ります。 また、青少年育成団体の活動を支援し、心身ともに健康で、豊かな未来に希望を持った青少年の育成を推進します。	○青少年健全育成事業 青少年育成市民会議を中心とした啓発事業などを実施します。 ○放課後子ども教室推進事業 市内4カ所の放課後子ども教室運営を委託します。 ○学校支援地域本部推進事業 地域未来塾事業を委託します。 ○青少年センター運営経費 青少年に対する該当指導や相談活動を実施します。	成果指標	体験事業参加者数					
			成果指標の説明	教育委員会及び青少年育成団体が実施する体験教室、子ども教室への参加者数					
			現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)	
		実績(人)	7,360	1,844	2,672			7,500	

まちづくりアンケート調査結果



傾向

- ・平均と比べ、参画度が低い。
- ・29歳以下の満足度が高い。
- ・50歳以上59歳以下の参画度が低い。

【CHECK②】		【ACTION】	【事業の進捗】
効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況
1	<p>効果が出ている点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画している事業を予定どおり実施できている。そのことに伴い、参加者数が前年度より増加している。 ・生涯学習支援員を配置することにより、より身近なところで、地域の特性に応じた生涯学習活動の支援ができ、取組みが行われつつある。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ多くの生涯学習機会を市民に提供するために、引き続き講師人材の把握に努め講座内容の検討を行う。 ・各年齢ごと(20歳、19歳)に行う成人式について対象者となる成人が実行委員会への参画がない地域がある。 	<p>○既存事業案</p> <p>講座実施については、現在の枠組みで実施する予定。令和5年度は子どもを対象とした講座を増やしていく。</p>	計画通り進めている
2	<p>効果が出ている点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズを把握しつつ、サービスの向上に努めることで、来館者の増加を見込んでいる。また、にぎわい忍者回廊PFI事業により新図書館移転整備後はさらに来館者の増加が期待できる。 ・各分館図書室を一体的に管理することで、統一したサービスの提供を目指している。また、今後分館の再編を行い移動図書館によるサービスを開始することについて対象地域への説明を行い一定の理解を得た。 ・市及び市内関係団体が所蔵する古文書などをデジタル化し公開している。広く周知を行いアクセス数は昨年と同じ月に比べ2倍以上と順調に増加している。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染対策のため、館内の座席数の調整やイベント開催時の人数制限を行った影響により、入館者数はコロナ前と比較すると減少しているが、今後は感染対策を継続しながら入館者数の増加に繋げる必要がある。 ・新図書館整備後の運営について、実施主体である事業者(SPC)と情報共有しながら、目標を達成できるよう努める必要がある。また、事業進捗に合わせて市民等への適切な情報共有を行い、理解を得る必要がある。 	<p>○既存事業案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の取組みを継続して行い、さらに充実できるように利用者のみならず市民ニーズの把握に努め、新たな利用者を増やす。 ・貴重資料デジタル化事業において、学校等でも積極的に学習に活用できるように、学校の意見を考慮しつつ内容の検討を行う。 ・新図書館について、事業者(SPC)との丁寧な協議を行い、可能な限り市民意見(ワークショップ等)を取り入れられるようにする。 ・事業進捗に合わせて適切なタイミングで市民等への情報共有を行う。 	計画通り進めている
3	<p>効果が出ている点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体との連携を継続して行うことで、安定した読み聞かせ会の開催ができている。 ・読み聞かせボランティアの募集及び研修会を行い、新しいボランティアの育成に繋げることができた。 ・市内小中学校への定期配送等学校図書室と連携し、読書推進体制を整えることで学校からも好評をいただいている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も読み聞かせボランティア団体との連携を行い、新たなボランティアの育成、支援の取り組みが必要である。 ・小中学校と図書館司書との連携や定期配送図書の充実により、児童生徒の読書推進に繋がる取り組みが必要である。 	<p>○既存事業案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせボランティアとの情報共有、意見交換等により、意欲を高める取り組みを行う。 ・図書館司書が小中学校の図書室担当者と連携し、学校の現状把握や読書推進のための検討を行う。 	計画通り進めている
4	<p>効果が出ている点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年育成団体が一本化され、全市的に取り組む事業と地域の特性に合った取組について、バランスを取りながら運営されている。 ・放課後の子どもの居場所についても、地域の協力を得て運営が継続されている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動はボランティアに拠るところが多く、団体ではスタッフの高齢化等が懸念材料となっている。 	<p>○既存事業案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の活動を継続していくこととする。 ・放課後子ども教室については、放課後児童クラブとの連携を検討していく。 	計画通り進めている